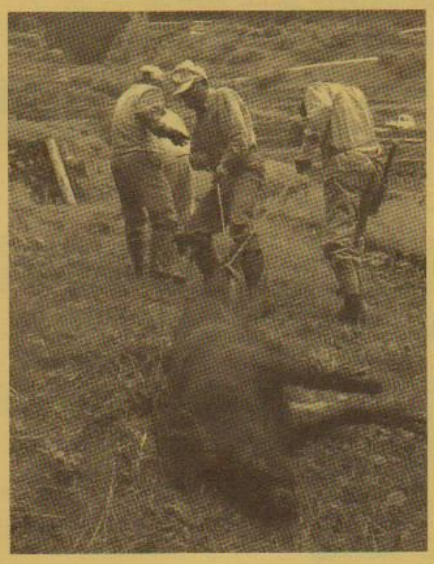
明日の農業を考える地域の取り組み

連谷（れんこく）地区における獣害対策　～個体数の削減に取り組んで～

はじめに



イノシシは平成 10 年頃から個体数の急激な増加とともに里地への出没が頻繁になり、農作物被害や道路法面の崩壊など、山や野よりも里地に大きな被害が頻発するようになってきた。

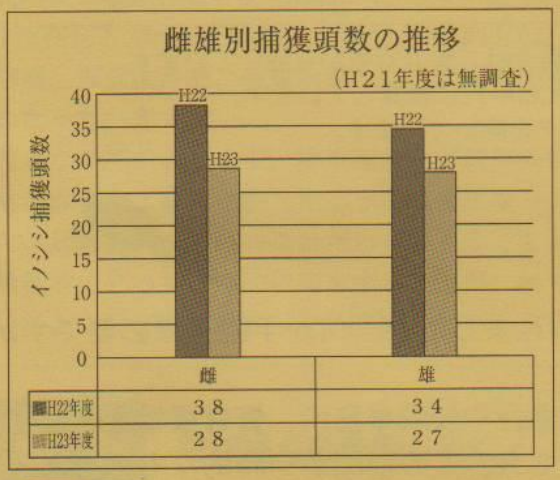
被害対策の一つとして暗視ビデオカメラを設置し、イノシシの動きを探り、効果のある電気柵を設置したことで水田への侵入は軽減されたが、畑地や樹園地の作物を守るためにトタンや網で対策を講じたが、それを張り巡らしてもぶち破り侵入するなど手の施しようがなくなった。そこで、連谷地区では野生イノシシの被害から地域を守るため、イノシシを害獣と位置づけ個体数の削減（有害鳥獣駆除）に取り組んでいる。

連谷地区の詳細（平成 24 年 4 月 1 日現在）

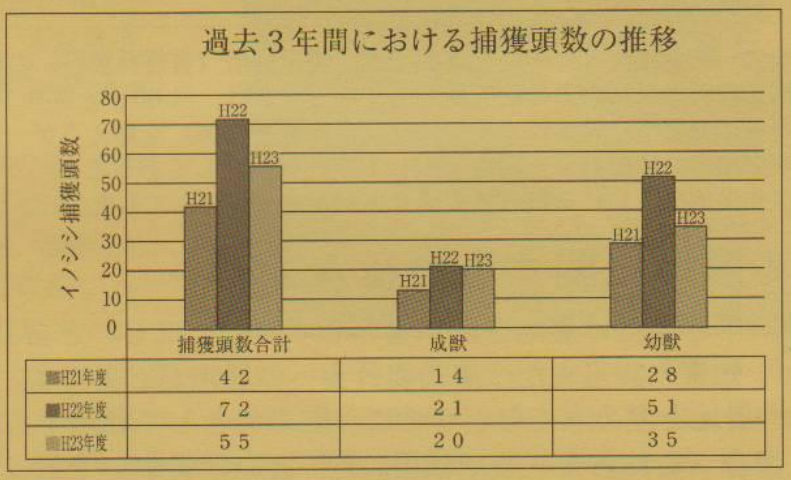
新城市の総面積 499ｋ㎡のうち連谷地区の総面積は 5.16ｋ㎡で世帯数および人口は 115 戸、322 名、児童数 5 名の周囲が森林に囲まれた小規模集落である。

取り組みおよび結果

連谷地区の有志 6 名が「わな猟狩猟免状」を取得、有害駆除（イノシシ、サル、シカ）を申請、移動式箱檻 31 基（うち竹檻 3 基）を設置してイノシシの捕獲に取り組んでいる。



	雌	雄
H22年度	38	34
H23年度	28	27



	捕獲頭数合計	成獣	幼獣
H21年度	42	14	28
H22年度	72	21	51
H23年度	55	20	35

考　察

雌成獣の捕獲頭数は、平成 22 年度 13 頭、平成 23 年度は 8 頭であった。雌 1 頭あたり年 1 回の出産で 5 頭が成長したと仮定すると前者が 65 頭、後者が 40 頭、両者で約 100 頭、年 2 回の出産でみること 2 年間で約 200 頭個体数の削減がこの地域で行われたものと思われる。

イノシシなどの野生動物の被害が多発し、中山間地に住む地域の住民は環境に恵まれた土地で手塩にかけて栽培した農作物のほとんどを収穫できず、生産意欲の減退から耕作放棄地が拡大されるとともに、この地域に住む意欲すら失せる現実にある。過去 3 年間の捕獲実績から個体数の削減は大きな成果をあげているものの「イノシシは山のウジで獲っても取ってもきりがない」と言われるが、個体数の削減を積極的に実施。集落を守るために地域ぐるみの挑戦はまだまだ続く。

≪新城市における年度別イノシシ捕獲総頭数≫

年　度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度
頭　数	558 頭	414 頭	544 頭	456 頭	540 頭	648 頭	1,191 頭	796 頭